

日立ソリューションズ

サステナビリティに関するビジネスパーソン意識調査 詳細資料

Contents

1. 調査概要
2. ビジネスパーソンのサステナビリティへの意識と推進状況
3. 事業や業務でサステナビリティを推進している人の意識と取り組み
4. ビジネスパーソンのSXへの意識
5. 調査結果への考察

日立ソリューションズは、国内企業に勤務する1,000名を対象に、「サステナビリティに関するビジネスパーソン意識調査」をインターネットで実施しました。

世界がさまざまな課題に直面する中、企業は、環境配慮や事業の創出、社会貢献、情報開示など、さまざまな取り組みを加速させています。持続可能な社会の実現に向けては、従来の法制度や社会インフラの仕組み、業界ルールなどを社会全体で変革するとともに、企業経営においても価値と稼ぐ力を持続的に創出し続けるべく、変革（SX：サステナビリティ・トランスフォーメーション）が必要です。

日立ソリューションズは、SXを実現していくためには、CSR活動に加えて、デジタルトランスフォーメーション（DX）、従業員体験（EX）の向上、協創（共創）*1が重要であると考えています。

本調査では、サステナビリティを推進していると回答したビジネスパーソンに、DX、EX向上、協創（共創）への意識や取り組む目的を聞いています。また、ビジネスパーソン1,000名を対象にSXへの認知を聞いています。

今後、サステナビリティという言葉はますます広がり、企業も持続可能な経営に向けて、SXへの取り組みが求められていくと考えられます。

本調査が、企業のサステナビリティやSX推進の一助となると幸いです。

*1 個社では解決が難しい複雑な社会課題に対応していくためには、多様な立場のステークホルダーと協働して新しい価値を創出すること

- 調査名 : サステナビリティに関するビジネスパーソン意識調査
- 調査方法 : インターネット調査
- 調査期間 : 2023年8月9日～8月14日
- 調査対象 : 従業員数300名以上の国内企業に勤めるビジネスパーソンで、
課長以上のビジネスリーダー層または経営者・役員1,000名
(男女 / 20歳～60歳代 / 全国 / 製造業、情報通信業、
建設業、サービス業など10業種)



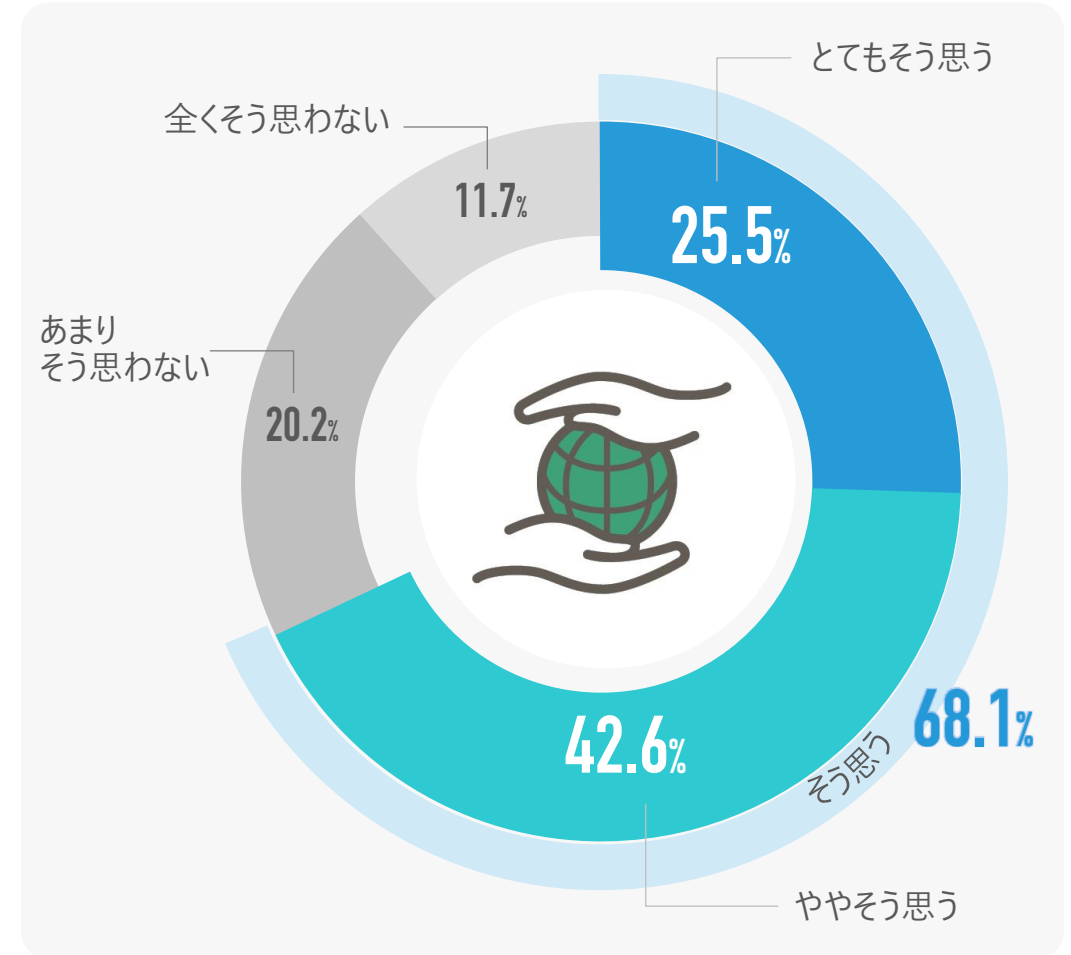
調査トピックスまとめ

2-1. ビジネスパーソン1000人のサステナビリティへの意識

Q あなたの事業や業務において、サステナビリティの推進（貢献）を重要だと思いますか。
(n=1,000 / 単一回答)

ビジネスパーソン1,000人のうち約70%の人が、事業や業務におけるサステナビリティ推進の重要性を認識している結果になりました。社会や地球環境の持続可能性への関心が高まってきており、「サステナビリティ」という言葉が浸透しつつあること、企業活動においても重要であるという認識が広がってきていることがわかります。

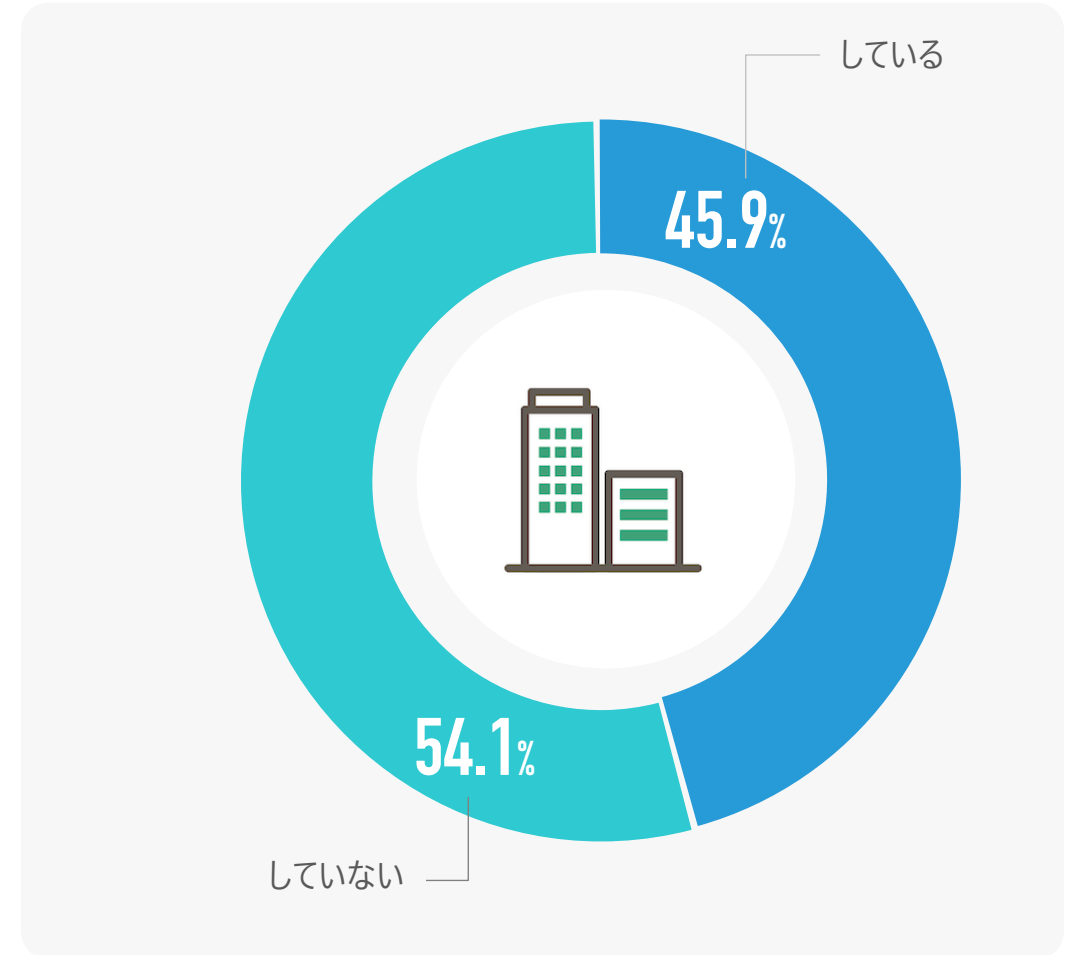
企業は、サステナビリティを推進するためのあらゆる取り組み、企業変革のためのパートナーが必要となってくると考えられます。



2-2. ビジネスパーソン1000人のサステナビリティ推進状況

Q あなたは事業や業務を通じてサステナビリティを推進していますか。
または、推進に貢献していますか。
(n=1,000 / 単一回答)

ビジネスパーソン1,000人のうち、459人がサステナビリティを
推進している、または、推進に貢献していると答えました。



サステナビリティを推進する 459人に聞きました

企業のサステナビリティ推進は、多岐に渡っています。
サステナビリティを推進している人が、
DX、EX向上、協創（共創）について、
どのように考えているのかをまとめました。

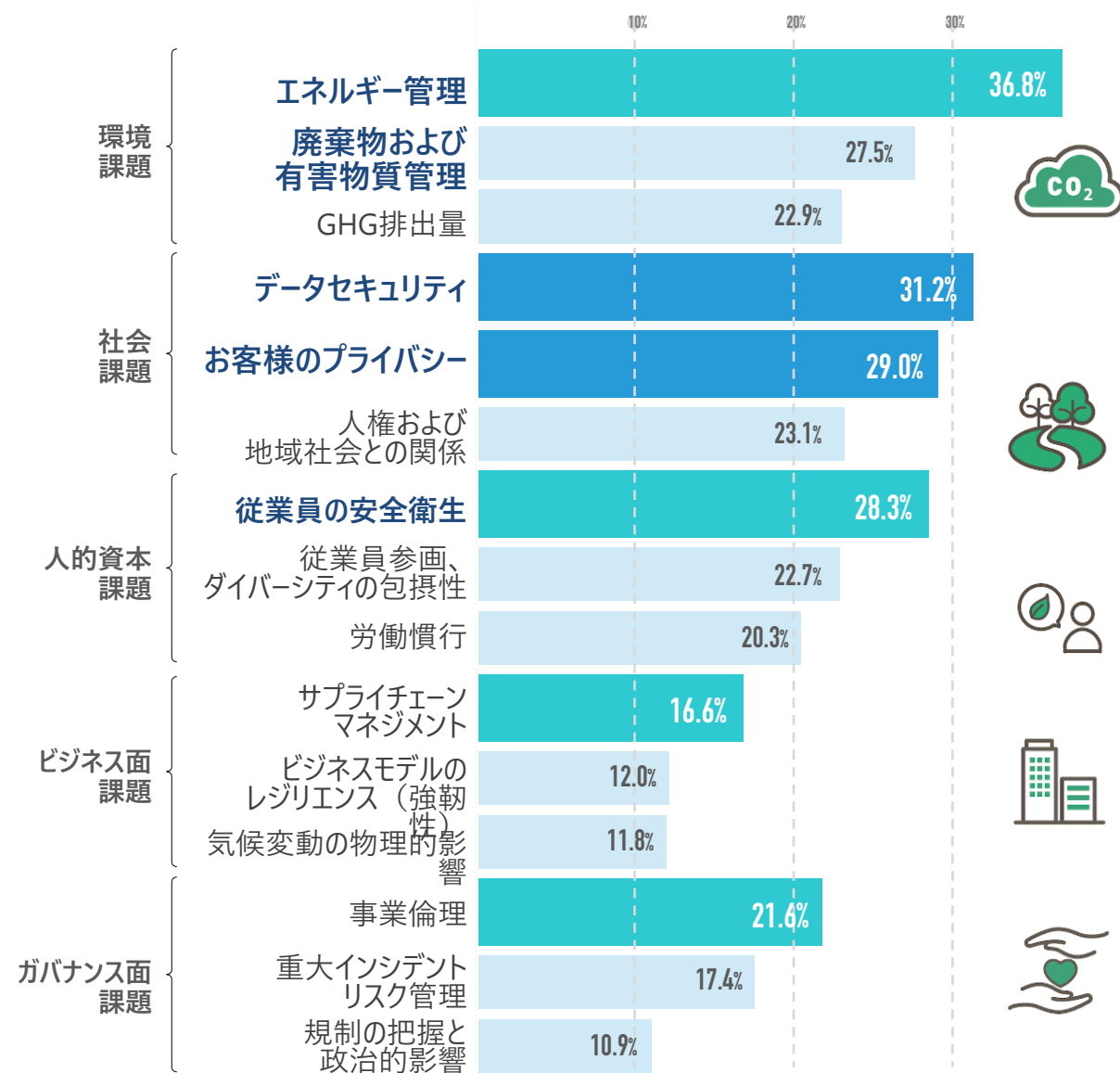
3-1. サステナビリティ推進に取り組まれている分野

Q あなたは、どのような分野でサステナビリティ推進（貢献）に取り組んでいますか。
(n=459 / 複数回答)
(各カテゴリーの上位3項目を記載)

事業や業務において、サステナビリティを推進している人が実際に取り組んでいる分野は、多岐にわたっています。

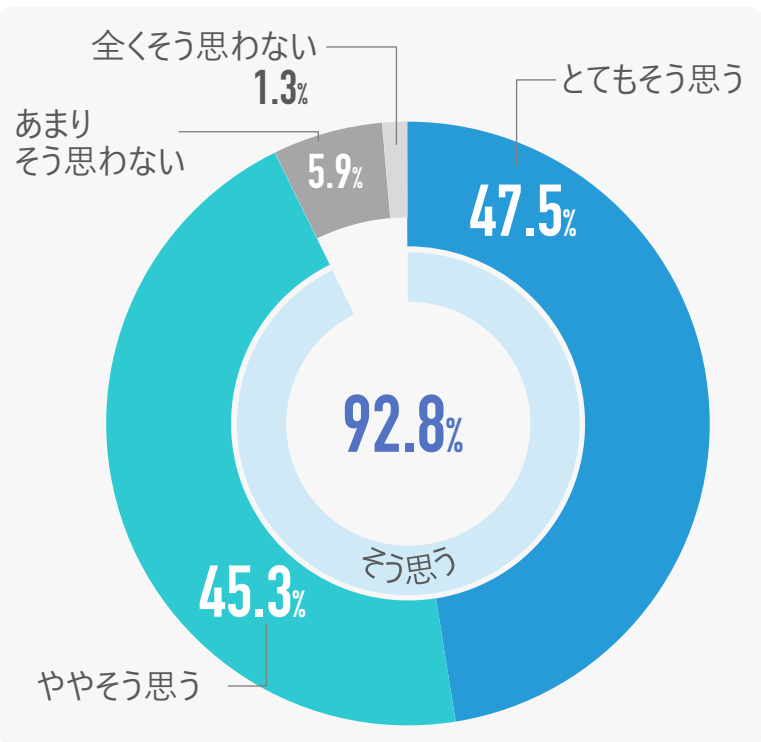
一般的に想起されやすい、環境課題のエネルギー管理が第1位でしたが、第2位にデータセキュリティ、第3位にお客さまのプライバシーが続きます。

情報セキュリティに対するリスクマネジメントは、企業の信頼性や信用性に直結する重要な経営課題の一つであると言えます。

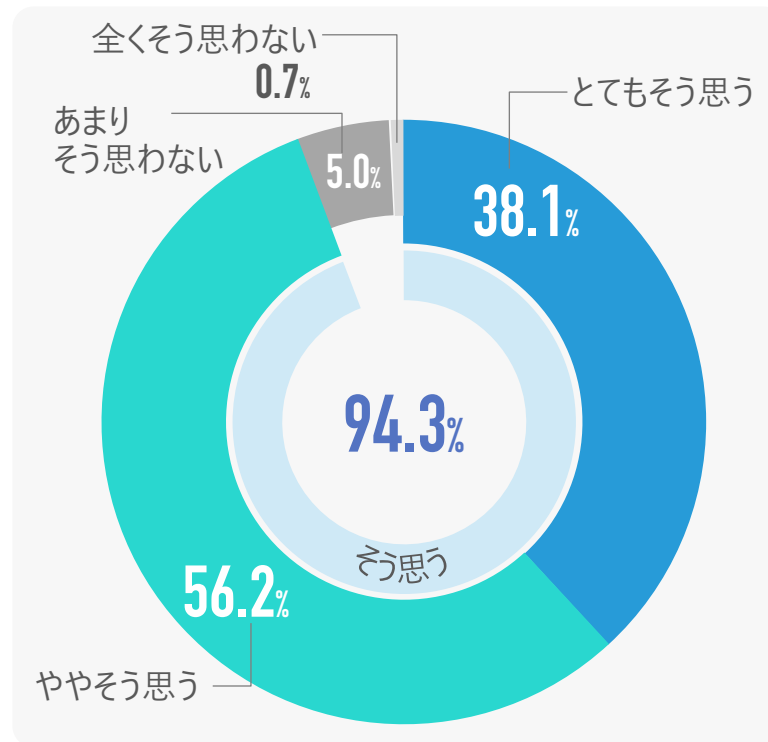


3-2. DX、EX向上、協創（共創）に対する意識

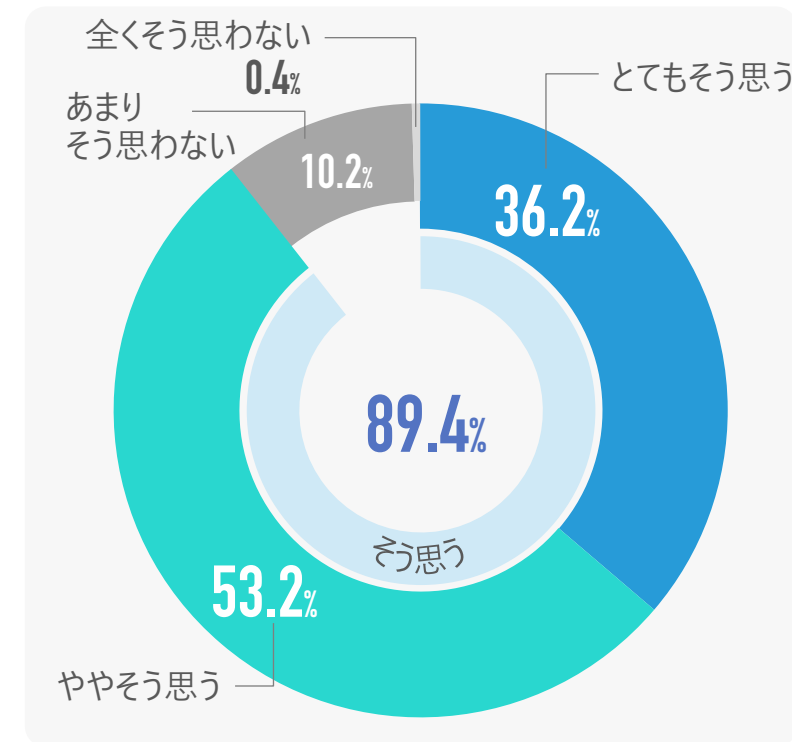
Q 事業や業務において、デジタル技術の利活用やDXを重要だと思いますか。
(n=459 / 単一回答)



Q 事業や業務において、EX向上は重要だと思いますか。
(n=459 / 単一回答)



Q 事業や業務において、協創（共創）は重要だと思いますか。
(n=459 / 単一回答)



事業や業務においてサステナビリティを推進している人のうち、

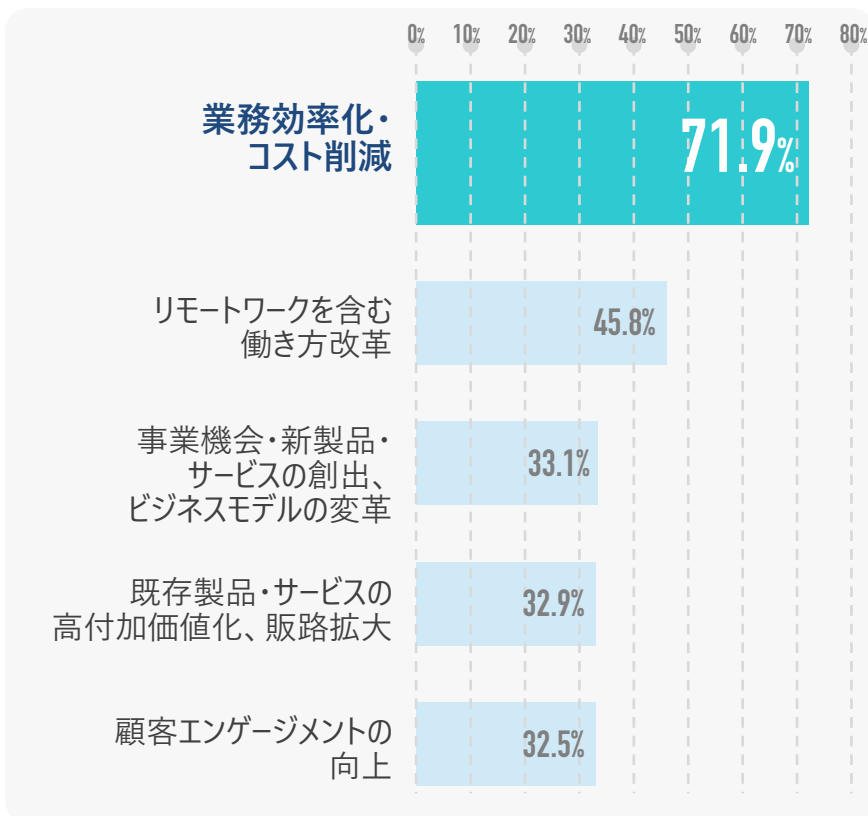
DX、EX向上、協創（共創）を重要だと考えている人は非常に多いことがわかります。

このことから、サステナビリティの推進とこれから3つの要素は関係があり、無視できない取り組みであると言えます。

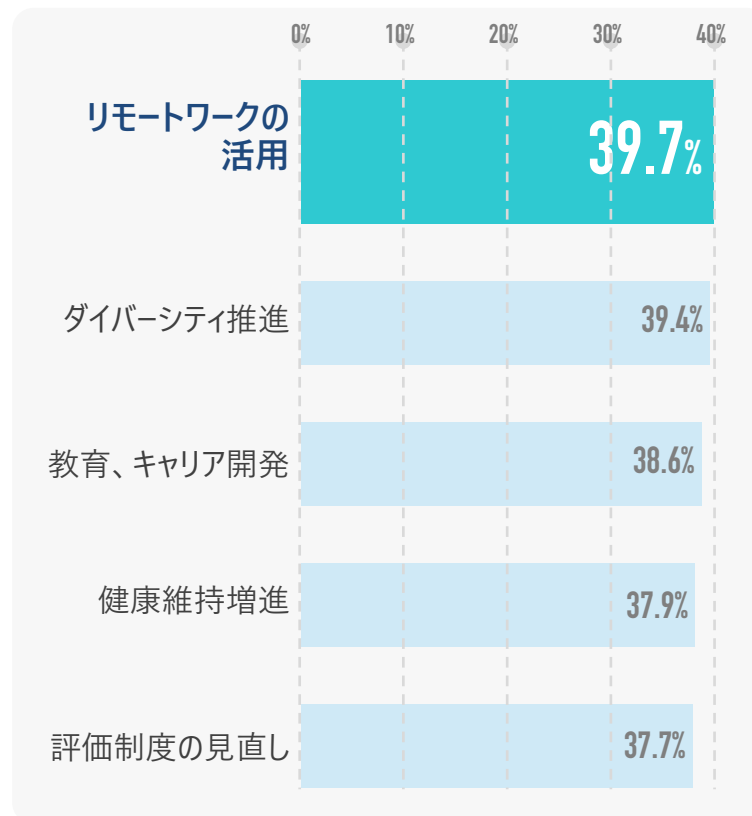


3-3. DX、EX向上、協創（共創）の目的

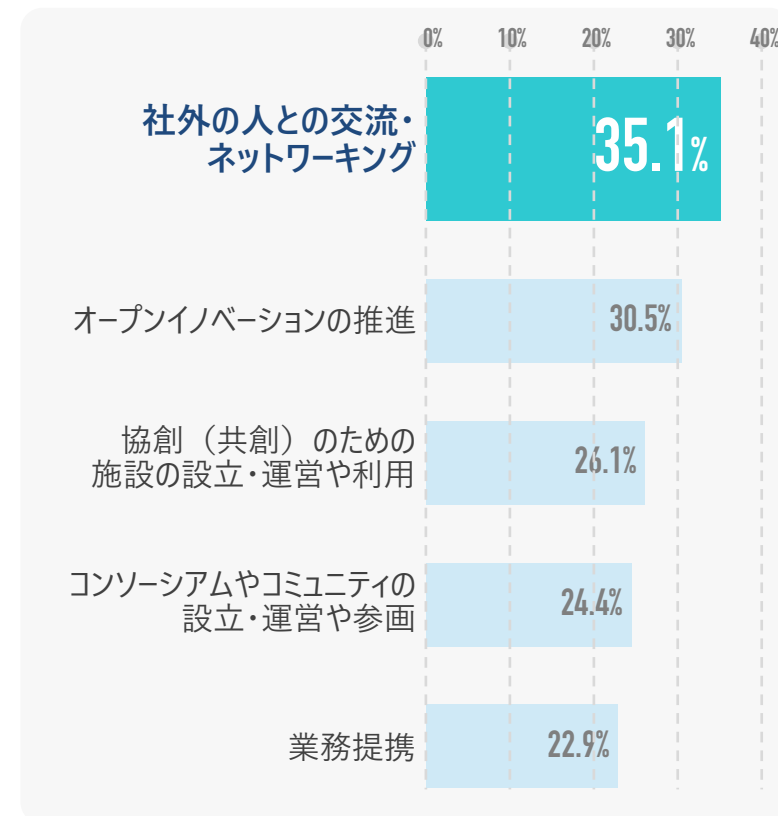
Q DXを推進する目的は何ですか。
(n=459 / 複数回答)
(全9項目のうち、上位5項目を記載)



Q EX向上のために取り組んでいることは何ですか。
(n=459 / 複数回答)
(全11項目のうち、上位5項目を記載)



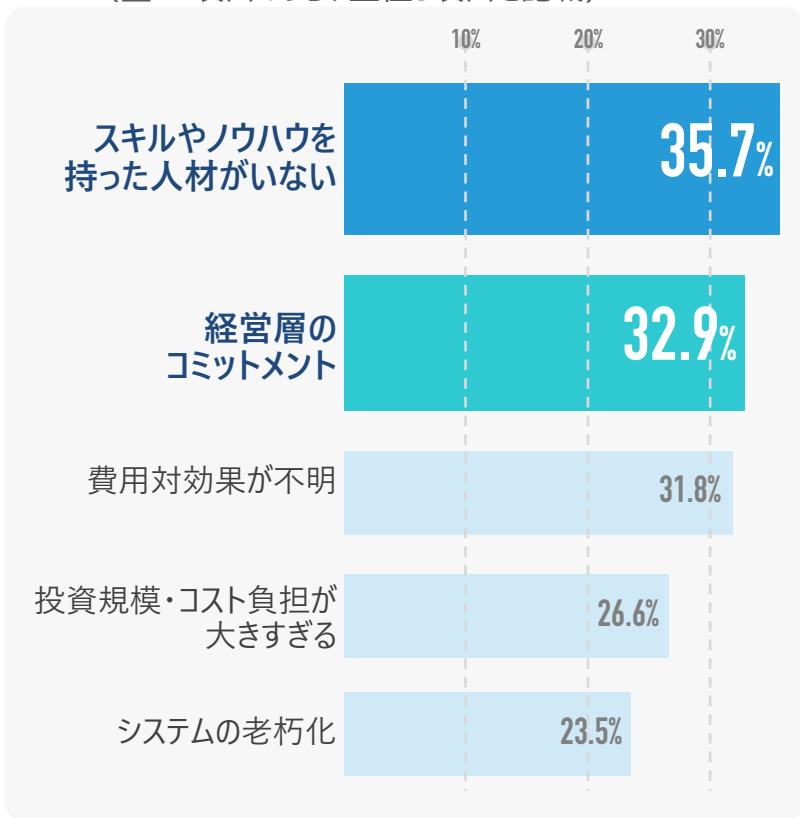
Q 協創（共創）のために取り組んでいることは何ですか。
(n=394 / 複数回答)
(全12項目のうち、上位5項目を記載)



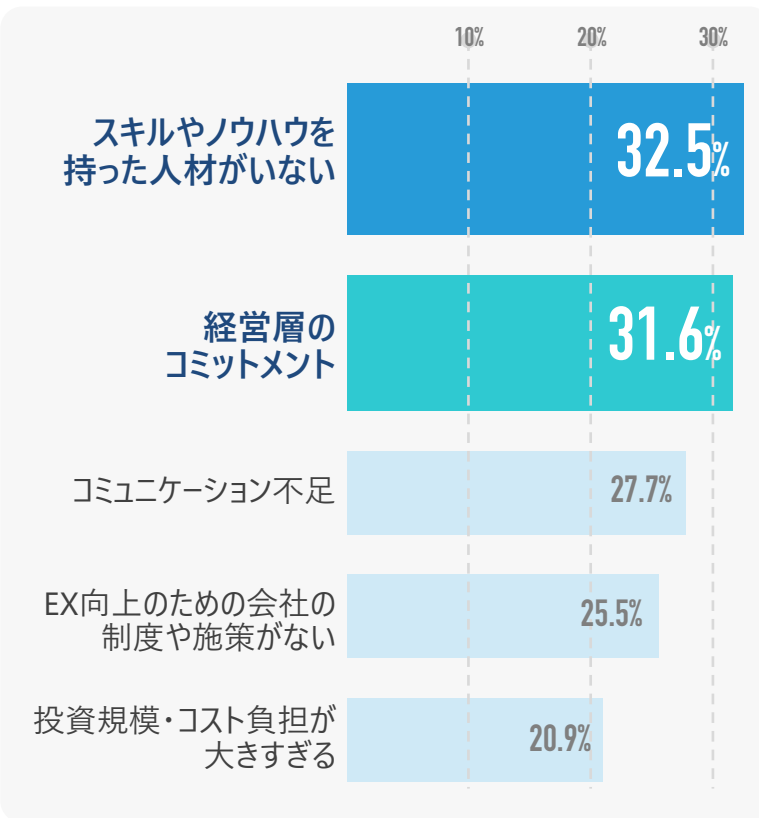
サステナビリティを推進している人にとって、DXの目的 第1位は「業務効率化・コスト削減」、EX向上の取り組み内容 第1位は「リモートワークの活用」、協創（共創）のための取り組み内容 第1位は、「社外の人との交流・ネットワーキング」でした。

3-4. DX、EX向上、協創の課題

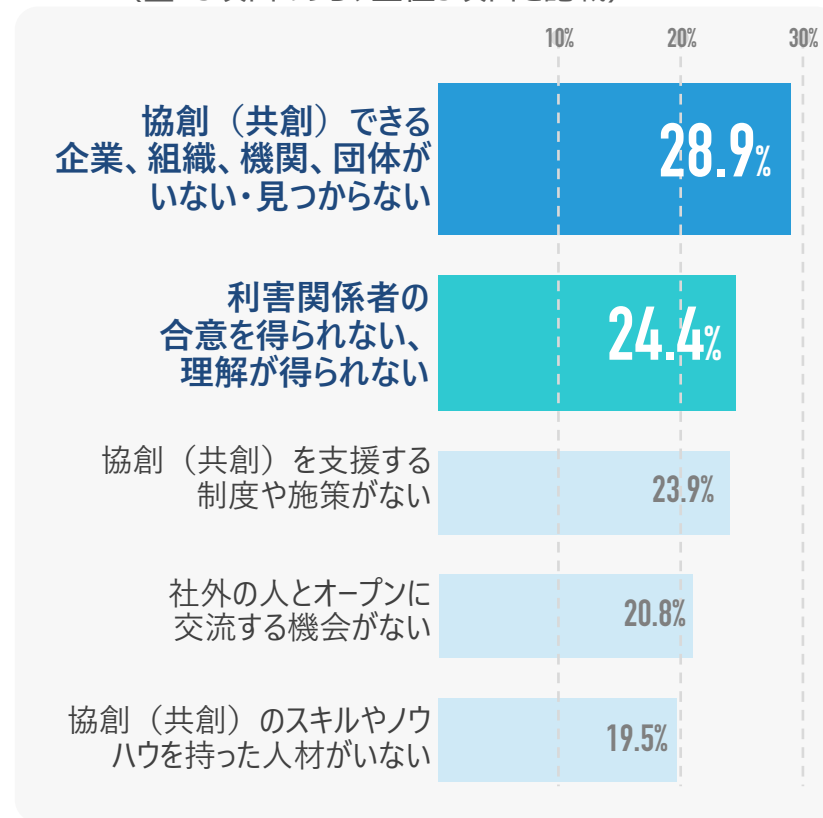
Q デジタル技術の活用について、課題を感じていますか。
(n=459 / 複数回答)
(全12項目のうち、上位5項目を記載)



Q EX向上について、課題を感じていますか。
(n=459 / 複数回答)
(全9項目のうち、上位5項目を記載)



Q 取り組んでいる協創（共創）に、どのような課題を感じていますか。
(n=394 / 複数回答)
(全13項目のうち、上位5項目を記載)



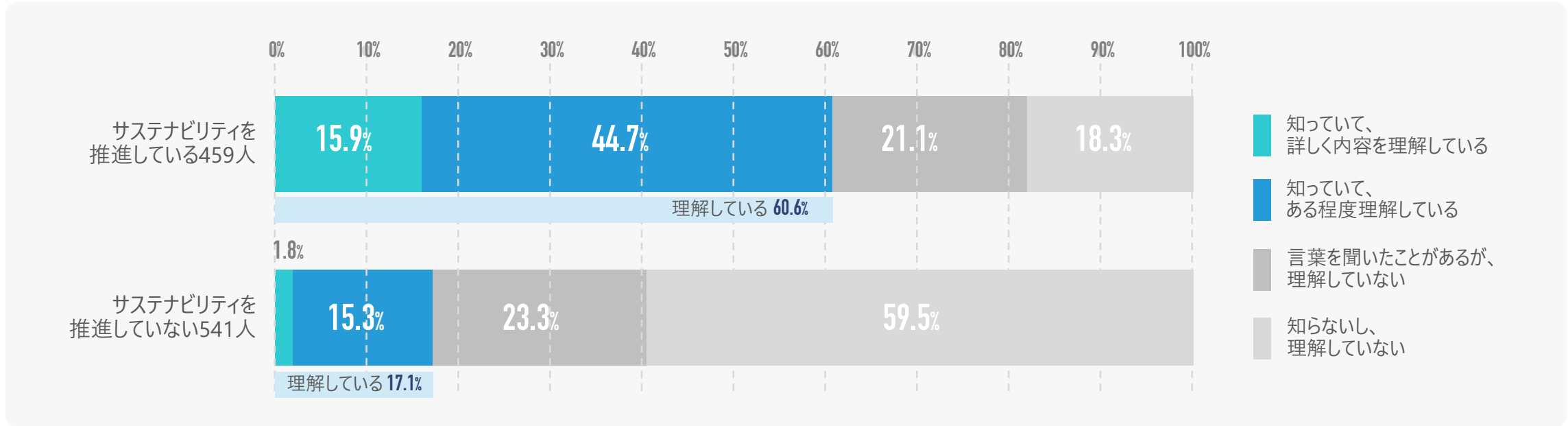
事業や業務においてサステナビリティを推進している人は、DXとEX向上の取り組みについて、DX人材の不足や経営層のコミットメントが課題であると答えた人が多い結果となりました。一方で、協創（共創）の取り組みについては、パートナーが見つからないこと、関係者の合意が得られないことが課題として挙げられています。

サステナビリティを推進する人と 推進していない人に、 「SX」について聞きました

持続可能な社会の実現に向けて、
従来の法制度や社会インフラの仕組み、業界ルールなどを社会全体で変革したり、
企業経営においても、環境価値、社会価値と経済価値を共存させ、
稼ぐ力を持続的に生み出していくための変革を、
SX：サステナビリティ・トランスフォーメーションと言います。

4-1. ビジネスパーソン1000人のSXへの認知度

Q あなたは、「SX」についてどの程度理解していますか。(n=1,000 / 単一回答)



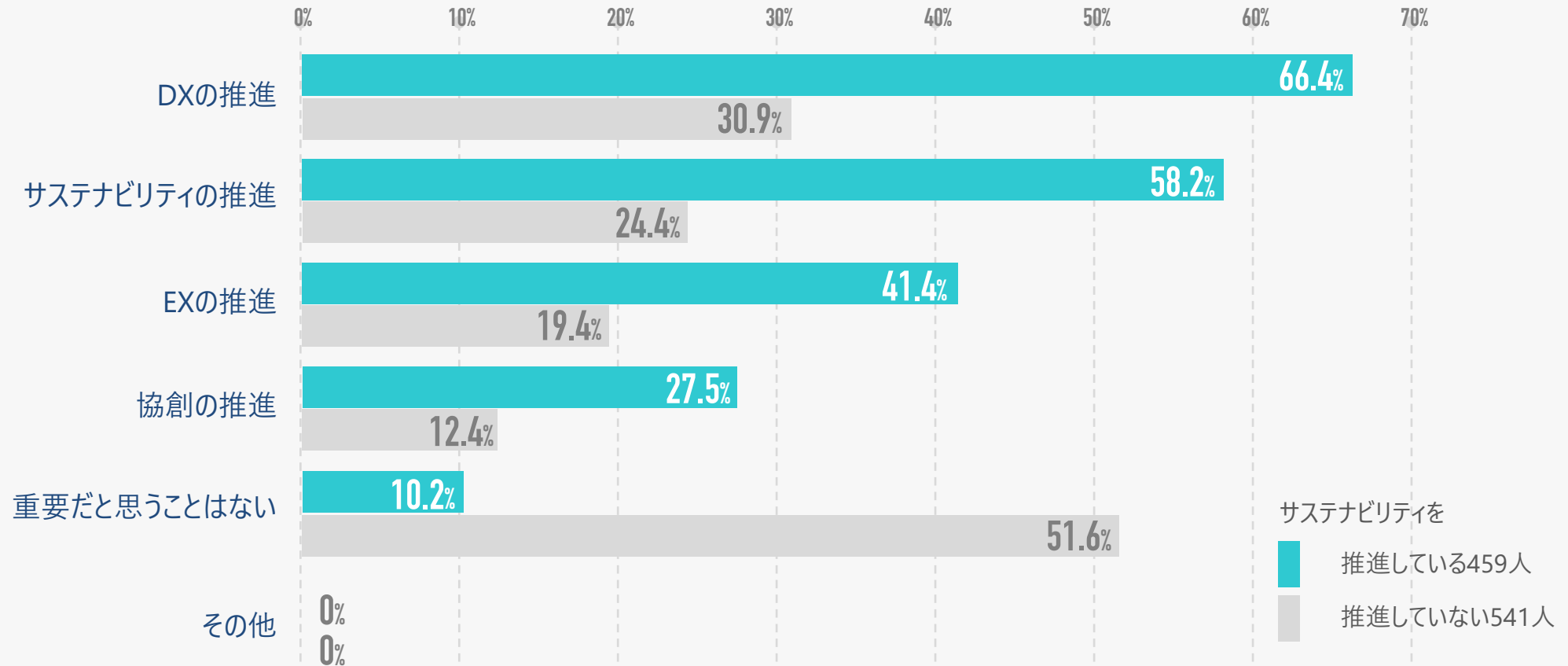
事業や業務においてサステナビリティを推進している人のうち、80%以上の人「SX」の言葉を聞いたことがあり、約60%の人が内容も理解していました。

サステナビリティに関する感度が高いビジネスパーソンの間では、SXの認知と理解が進んでいることがわかります。一方で、サステナビリティを推進していない人のうち、理解していると答えたのは約17%にとどまりました。



4-2.SXとサステナビリティ、DX、EX、協創の関係性

Q あなたは、SXを実現するためには、何に取り組むことが重要だと思いますか。（n=1,000 / 複数回答）



SXの実現に向けて、「DX」の重要性は認知されているものの、「EX」「協創（共創）」の重要性は、まだまだ認知されていないことがうかがえます。

調査結果から、サステナビリティについて「知っている」「理解している」と答えたビジネスパーソンの割合は約70%に上り、サステナビリティという言葉が浸透し、事業や業務で多岐に渡って推進されていることがわかりました。

また、サステナビリティを推進している人にとって、DX、EX向上、協創（共創）は重視される傾向があることも見えてきました。企業がサステナビリティを推進するうえで、3つの取り組みは無視することができないと考えられます。

サステナビリティを推進している人にとって、DXやEX向上を推進するために経営層のコミットメントを求める声が最も多くあり、協創（共創）の課題では、パートナーが見つからない、関係者の合意が得られないという声が多くありました。

企業がサステナビリティを推進していくためには、経営層をはじめとするビジネスパーソンがサステナビリティやDX、EX向上、協創（共創）についての理解を深め、取り組んでいくことが求められていると見受けられます。

一方で、持続可能な社会の実現に向けた社会全体や企業の変革を表す「SX」という言葉は、サステナビリティを推進している人においても、「ある程度理解している」と回答した人は約60%となっており、浸透過程であることがわかりました。

SX実現のための取り組みについては、DX推進を重要だと答えた人が多い一方で、EX向上と協創（共創）の認識は高くありませんでした。

日立ソリューションズはお客さまやパートナー、地域社会などさまざまなステークホルダーの皆さまとともにサステナビリティ、DX、EX向上、協創（共創）に取り組みながら、企業と社会のSXを支援していきたいと考えています。

HITACHI
Inspire the Next 